

【1】招集年月日：2021年5月19日(水)

【2】開催年月日及び時刻：2021年5月29日(土) 10時30分～12時48分

【3】開催場所：国立科学博物館総合研究棟4階 地学研究部長室 〒305-0005 茨城県つくば市天久保4-1-1  
(Zoom Meeting によるオンライン会議)

【4】理事総数および定足数：総数22名，定足数12名

【5】出席理事数：21名 オンライン会議参加

宮脇律郎，大和田正明，安東淳一，阿部なつ江，井上 徹，池田 剛，磯部博志，  
大藤弘明，鍵 裕之，片山郁夫，川本竜彦，河上哲生，栗林貴弘，黒澤正紀，  
辻森 樹，土屋範芳，永島真理子，伴 雅雄，三宅 亮，坂本尚義，吉朝 朗

【6】欠席理事数：1名(長瀬敏郎)

【7】出席監事：小暮敏博

【8】オブザーバー：(理事以外の前期幹事，前期委員長等報告事項報告者)

出席：和文誌編集委員会高澤栄一編集幹事代理，JpGU選出プログラム委員門馬綱一委員，同委員西原遊委員，  
教育普及委員会林信太郎委員長，新鉱物・命名・分類委員会門馬綱一委員長，博物館委員会坂野靖行委員長，  
IMA小委員会・学術会議西山忠男委員長，日本鉱物科学会論文賞選考委員会富岡尚敬委員長，研究発表優秀賞  
選考委員会吉村俊平委員長

【9】議事概要

宮脇理事の発議により議長を理事の互選で選ぶことになり，黒澤正紀理事が議長に選出された。黒澤議長から，  
2021年5月19日に理事会招集通知を行い，本日第2回定例理事会を開催することになった旨の報告があった。  
次に，決議定足数と開始時刻における出席理事数の確認を行い，理事21名の出席を確認したので，定款30条によ  
り理事会が成立した。このことを受け，黒澤議長はWEB会議システム(ZOOM Meeting)を用いての理事会開会を宣言  
した。また，WEB会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に他の出席者に伝わり，適時的確な意見  
表明が互いにできる状況)に問題がないことを確認し，2020年度第2回定例理事会を開始した。  
会議に先立ち，理事の互選で黒澤正紀理事が書記として選出された。

## I. 報告事項

### 1. 会長・副会長の職務執行報告 (宮脇会長・大和田副会長)

会長・副会長より，学会体制の健全持続化に向けて関係幹事に方策を講じるように指示があった。個別の業務は各担当  
者に一任していることから，以下の順に沿って各担当者から報告を行った。

### 2. 会員報告 (阿部会員幹事・理事)

阿部会員幹事より，2020年度第4回定例理事会(2020年8月29日)以降の会員動静について，以下の通り報告がなされた。  
物故会員2名(名誉会員1名，永年会員1名)，退会者15名(内訳：永年会員1名，シニア会員7名，一般会員3名，学生会員  
3名)であった。また，2020年8月29日第4回理事会において，7名の2年会費未納者への納入依頼を関係理事にお願いした  
が，4名については連絡が取れなく，会員資格停止が決定した。2名の住所不明会員については関係する会員を通して調査  
中である。

### 3. 広報報告 (大藤広報幹事・理事)

大藤広報幹事より，広報活動について以下の通り報告がなされた。

(1) 会員へのML送信：事務局を通じ，2020年は総会以降に3件，2021年は現在までに4件配信。内容は，学会事務連絡，学

術雑誌の刊行案内、公募情報、関連学会案内などのほか、小惑星探査機「はやぶさ2」の地球帰還を受けての声明文やコメント動画(土山会員)のリンクも掲載。

(2) 2019年度各賞受賞者に受賞コメント動画の作製依頼：小松会員の受賞コメント動画をHPで紹介。今後も受賞者の方にはコメント動画にご協力いただき、HP上(受賞者一覧からリンク予定)での紹介も検討。

(3) 学会HPとシンクロさせながらFacebook, twitterを随時更新。

(4) 2021年連合大会のオンラインブース展示：JpGUブース担当の齊藤委員および周辺会員の協力により、昨年に引き続きオンラインコンテンツ(動画：大学における実習風景、鉱山の坑道内レポート、岩石を割断する様子、ハワイの溶岩、一家に1枚「鉱物」ポスターの宣伝など)を充実させた展示を準備中。ブース宣伝のための30秒CMにもエントリー。また、クイズラリーにも申し込み、景品としてヒスイ輝石(3個)、スピネル結晶(20袋)を提供。

(5) 株式会社「えにさむ」より当学会の活動内容を紹介・発信するための取材申し込みがあった。先方担当者との目的や取材内容、形式などを詰め、近くオンラインで取材を受ける予定。会長および広報幹事で対応予定。

#### 4. 渉外報告(永島渉外幹事・理事)

コロナ禍の影響下での活動という事情もあり、特に報告事項はなし。

#### 5. 和文誌編集報告(長瀬和文誌幹事代理：高澤栄一)

高澤和文誌編集幹事代理より、2021年5月28日に開催された和文誌GKK編集委員会の内容について以下の報告がなされた。

(1) 編集状況報告: 1)2021年5月26日現在まで、岩石鉱物科学49巻2号,3号,4号,50巻1号の合計4号が発行された。掲載件数頁数は原著論文2件32p, 資料・解説4件29p, 新刊紹介4件1p, ニュース(他学会案内, 公募等)1p, 投稿規定3p, 学会記事(理事会・総会議事録)74p, 追悼文1p, 総目次2p, 広告1件0p, 白頁2p, 4号分合計頁146p, 1号平均頁36.5p, 2) 発行状況: 50巻2号(2021年5月26日公開中) 受賞紹介3編: 50巻3号(発行未定) 原著1編, 資料他2編掲載予定, 3) 現在査読中論文が1編。

(2) GKKの経費の削減案について情報共有と意見交換を実施。1) 電子ジャーナル化を図ることは概ね合意(希望者には追加料金でオンライン印刷での冊子体の配布)。2) 但し、電子ジャーナル化してもGKKの独立採算化は難しい。収入増として、完全カラー化、レター論文・原著論文を増やすこと、特集号発行等が必要。3年間会員のみ閲覧制限を解除あるいは短期化の検討も必要。3) ページチャージ値上げも検討。4) 無料別刷廃止。5) 英文誌JMPSとGKKとの統合も議論したが、GKKだけでは決められない。6) 電子ジャーナル化後のGKKのあり方については今後も随時検討予定。

#### 6. 英文誌編集報告(吉朝英文誌幹事・理事)

吉朝英文誌幹事より、JMPSの編集状況について以下の報告がなされた。JMPS編集委員会(WEB会議)の内容については、審議事項の第12号議案の説明で詳しく報告された。

(1) 報告事項: 1) JMPS状況報告: 2020年5月の報告以降2021年5月26日現在まで115巻3号(6月)~116巻2号(4月)計6号が発行された。掲載件数頁数は次の通り: Articles 29件338p, Letters 5件26p, Technical 1件5p, Editorial 1p, Errata 1p, 投稿規程 3p, Index 4p, Contents 5p, 白頁3p, 5号分合計頁386p, 1号平均頁64.3p。2) 今後の発行予定: 116巻3号(6月号)(早期公開1編, 印刷中6編, 7月初旬WEB公開予定), 116巻4号(8月号)(未定)。3) 現在の編集状況: 受理論文6編(6月号予定), 査読中5編, 返却中3編, 投稿: 1編。4) 2019 JMPS Impact Factorは0.764となり、2018年の1.472より減少。以上から、JMPSへの投稿は例年通りで、順調に発行されていることが報告された。

(2) 審議事項: 1) 出版経費の削減・将来の方向性について編集委員会で検討していることは次の通り: 基本的に電子ジャーナル化を図り、冊子体は希望者に追加料金で配布する、図書館等配本が必要とされる部分への対応を検討。併せてカラー化も図る。ページチャージは値上げの方向で、ページチャージ割引も廃止の方向で検討。2) 2020年度JMPS学生論文賞審査結果は以下の通りで、後記の本理事会で審議された。第11回対象論文: Assimilation and fractional crystallization of Sanukitic high-Mg andesite-derived magmas, Kyushu Island, southwest Japan: An example of the Cretaceous Shaku-dake diorite body. JMPS, 115-4, 323-347, 2020. 学生会員筆頭著者: 江島 圭介。第12回対象論文: Serpentinite enigma of the Rakhabdev lineament in western India: Origin, deformation characterization and tectonic implications. JMPS, 115-2, 216-226, 2020. 学生会員筆頭著者: SARKAR Dyuti Prakash.

#### 7. 庶務報告(黒澤庶務幹事・理事)

黒澤庶務幹事より、2020年度第1回定例理事会(2020年9月18日)以降の庶務業務について以下の報告がなされた。

1) 2019年度定時総会WEB開催準備、総会招集通知資料発送、当日担当、WEB授賞式準備、総会議事録作成確認。2) 2020年度第1回定例理事会(WEB会議)、第1回臨時理事会(WEB会議)、第2回臨時理事会決議の省略、第2回定例理事会(WEB会議)の開催準備・WEB会議準備・議事録作成確認。3) 法人役員交代による法人変更届資料作成、理事兼業申請、各幹事・委員会委嘱依頼、兼業申請。4) 学会各賞公募の会員アナウンス対応。5) 後援、共催、協賛対応。6) 会員へのメールニュース連絡、学会誌発送、国内外寄贈図書整理、寄贈学会誌発送。7) 第18回(令和3年度)日本学術振興会賞受賞候補者の学会内推薦のお願い。8) 第12回2021年度日本学術振興会「育志賞」受賞候補者会長推薦依頼。9) 地球惑星科学分野大型研究計画のヒアリング実施のお知らせ。10) 事務局管理: 覚書作成、勤務管理、新型コロナウイルス感染拡大で宮城県緊急事態宣言による事務員在宅勤務への対応。

## 8. 行事報告(磯部行事幹事・理事)

磯部行事幹事より、コロナ禍状況での今年度の行事について以下の通り報告がなされた。

(1)日本鉱物科学会2020年度年会・総会：2020年度年会・総会は、新型コロナウイルス感染症拡大のため予定していた東北大学での現地開催を中止、オンラインで開催。＜経過＞4月中旬：例年通り開催予定で年会案内を作成。但し、状況により年会開催の可否を判断する旨付記。5月7～15日：各セッションコンビーナー等にオンライン開催についてアンケート実施。5月23日：2019年度第2回理事会で通常開催を中止する旨提案し、了承される。5月27日：現地開催断念をメールニュースで告知。5月末～6月上旬：オンライン年会の詳細を検討。ポスター発表なしで、オンラインでは口頭発表と要旨のみの発表の2種類とし、投稿料のみ徴取すること等を決定。投稿料：会員 一般 ¥4000、学生 ¥2000、非会員 一般 ¥6000、学生 ¥3000、オンラインによる聴講のみ参加は無料。6月23日：当初予定の日程でオンライン年会・総会を行う予定を告知。6月29日：2019年度第3回理事会でオンライン年会開催を承認。7月20日(月)～31日(金)：メールによる演題及び発表セッション申込み、その後、締切を8月3日(月)まで延長。8月6日：コンビーナーへ発表採否、プログラム編成依頼。8月19日：発表申込者へ要旨提出サイト案内通知。8月24日～31日(月)：要旨提出。8月31日：投稿料払込締切。9月10日：オンライン年会参加申し込み締切。9月14日：プログラム・要旨公開、オンライン年会サイトを通知。＜実施＞日程：2020年9月16日(水)～18日(金)(当初予定通り)、発表申込数：オンライン口頭発表45件、要旨のみ発表55件(合計100件)。9月16・17日：並行セッションは行わず、Zoom会議室1室でのオンライン口頭発表。9月18日：総会・授賞式・受賞講演・理事会。参加者数(発表者)：会員 一般56名、学生34名、非会員 一般2名、学生8名、計100名。収入合計328,000円。ZOOM参加者：9月16日201名、9月17日195名、受賞者講演107名。支出：Confit基本料金110,000円、ZOOM使用料9,570円、総会会場光熱費1,504円、計121,074円。剰余金206,926円。

(2) 日本地球惑星科学連合2021年大会JpGU Meeting 2021：日程が延期され、2021年5月30日(日)～6月6日(日)に開催。開催方法は昨年に引き続きオンライン大会となった。

## 9. Elements報告(森下 Elements幹事代理：黒澤庶務幹事)

森下Elements委員長に代わり、黒澤庶務幹事よりElements 2021年掲載原稿について次の報告があった。2021 vol.17 No.1 宮脇JAMS新会長挨拶：発行済み、2021 vol.17 No.2：西山会員他の日本産ダイヤモンド紹介記事(データをElementsに提出済み)、2021 vol.17 No.3：富岡会員の新鉱物紹介記事(原稿準備済み)。

## 10. 2020年度会計中間報告(栗林会計幹事・理事)

栗林会計幹事より、日本鉱物科学会2020年度会計収支中間報告(2020年8月1日～2021年5月25日)について、収支表が提示され詳細な説明がなされた。会費請求の通知にもかかわらず、学会費の納入が遅れているのは例年通りの課題であり、引き続き回収を図る旨の報告があった。また、次の報告事項にあるような2020年9月の東北大学開催年度の剰余金(約20万円)、臨時収入として鉱物科学会編集の「鉱物・宝石の科学事典」の編集料等(約80万円；預かり金となっていた2019年度分(40万円)と2020年度分(40万円)の編集料の合計)、Elements購読代金支出が半期半額の減額分(約60万円)があったこと、事務局管理費の節減に努めたこと等から、ほぼ収支均衡の決算の見込みであることが報告された。

## 11. 2020年オンライン年会会計決算報告(栗林会計幹事・理事)

栗林会計幹事より、2020年オンライン年会(東北大学)の会計決算について決算表が提示され、説明がなされた。行事報告にもあった通り、行事委員会・東北大学LOCの尽力により多くの方々にご参加いただき、予想以上の黒字(206,926円)となったことが報告された。なお、法人化後は年会会計決算も7月の決算に合算され8月に監査を受け、総会の承認を受けることになるので、今回は報告のみとする。

## 12. 将来企画委員会報告(大和田委員長・副会長)

理事会後に委員会開催予定のため、検討内容は次回理事会で報告する。

## 13. 特務幹事(細則等検討担当)報告(大和田特務幹事・副会長)

現在、諮問されている内容は無いため、特に報告事項はない。

## 14. 地惑連合報告(阿部連絡担当委員・理事)

阿部JpGU地惑連合連絡担当委員より、JpGU理事会関係についての以下の報告がなされた。

1)JpGU2021大会：2021年5月30日(日)～6月6日(日)に完全オンラインで実施。ConfitとZoom(アプリケーション版)を利用。それに伴い、当初予定会場のパシフィコ横浜のキャンセル料が発生。6月4日(金)まで参加登録受付中で、特にパブリックセッション(5/30,6/6)については一般参加(無料)を広く呼びかけて欲しい。5月31日(月)12:30-13:30には学協会長会議、17:15-18:15には定時社員総会を開催。展示企画では鉱物科学会も展示(広報委員会)。今後の大会オンラインシステム改善のため、寄付を募集中。2)SDGsタスクフォース：各サイエンスセクションおよび委員会代表・有志・オブザーバーによるSDGsタスクフォースの会合を2021年1～3月にかけて3回実施。JpGUとSDGsとの関わりとその推進を議論。今後WGを結成して実

働(例えば「若手会」など)に移行予定. 3)JpGUフェロー・西田賞に関する議論: JpGUフェロー規則および西田賞受賞候補規則(年齢制限45歳未満)の改定を検討中. 4)ダイバーシティ推進: 各サイエンスセクションのメンバー・委員会委員の女性比率を目標30%(最低20%)に引き上げるよう努力中(参考: 2017年 正会員14%, 学生会員28%). 男女共同参画学協会連絡会(<https://www.djrenrakukai.org/>)では, 研究者の推移を調査するため, 大規模アンケート(4~5年に一度)を準備中. 第5回調査は, 2021年10月に2週間程度の期間実施予定(<https://www.djrenrakukai.org/enquete.html#enq>).

#### 15. IMA小委員会・学術会議報告(西山IMA小委員会委員長,学術会議連携会員)

西山IMA小委員会委員長・学術会議連携会員より, 2020年5月29日(土)9:05-10:00に開催されたIMA小委員会の報告がなされた.

1) 役員交代し, 西山委員長, 宮脇副委員長, 大藤幹事の体制とした. 2) IMA business meeting報告: 新執行部のcouncilorの選挙があり, 大藤弘明会員がcouncilorに就任. IMAは, 2022年リヨンで, 2026年に中国の南京で開催する予定. 3) 国際集會代表派遣では, 宮脇委員をM&M9に派遣予定. 他に議題には, 4) 学術会議学術フォーラム「地球惑星科学の国際学術組織の活動と日本の貢献」や 5) 学術会議の動向(任命拒否問題など)として, 国際学会登録費等支払いに関する国による経済的支援の観点から, 学術会議体制の現状維持の方向で模索している等があった.

#### 16. JpGU 2021年学会選出プログラム委員報告(門馬委員長)

門馬2020年JpGUプログラム委員より, 以下の報告がなされた.

例年通り, 資源地質学会・日本地質学会と共同で, JpGU 2021のセッション『岩石・鉱物・資源』の提案を行った. 口頭8件, ポスター10件の計18件の投稿があり, すべてオンラインで発表が行われる予定.

#### 17. 新鉱物・命名・分類委員会報告(門馬委員長)

門馬新鉱物・命名・分類委員会委員長より, 以下の報告がなされた.

2020年には113件の新鉱物承認, 8件の鉱物群の定義, 3件の鉱物名抹消, 2件の再定義があった. 日本からは新鉱物苦前鉱/Tomamaelite  $\text{Cu}_3\text{Pt}$ , フェリぶどう石/Ferriprehnite  $\text{Ca}_2\text{Fe}^{3+}(\text{AlSi}_3)\text{O}_{10}(\text{OH})_2$  の2件が承認された.

#### 18. 教育普及委員会報告(林委員長)

林委員長より, 教育普及委員会の活動について以下の報告がなされた.

(1) 教育普及委員会今年度の目標として, 1) 教育普及委員会現在の委員会体制, 2)SSHを通じた高大連携活動によるアウトリーチ, 3)一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動の方策を新型コロナ肺炎の状況を考慮して実行, 4)小中高の理科教科書のチェックを策定.

(2) 実施状況: 1)委員会体制は現在検討中. 2)SSHを通じた高大連携活動によるアウトリーチ: 熊谷高校と東JAMSTECを結んだオンライン講座の開催を実施済み, 熊谷高校の秋田大学訪問と講演会を実施予定. 3)一家に一枚の鉱物のポスターの普及活動: ジオパークでの遠隔講座として銚子ジオパークと交渉したが, 担当者交代のために糸魚川ジオパークと交渉予定. また, 学校教育での活用を目的にYouTubeに短い動画シリーズの掲載も検討. 内容は小学校向けに「黒雲母のへき開」「岩塩の結晶を作ろう」等を考えている. 4)小中高の理科教科書のチェックについて: 趣旨は, 「学校教育で使用される教科書は, 多くの児童生徒の目に触れるため, 影響力が大きい. そのため, 現行の小中高の理科教科書の鉱物科学的正確性は, 鉱物科学の普及を考える上で重要である. そこで, 現行の小中高の理科教科書中の鉱物科学に関する記述に関して, 検討を行い, 誤りがあった場合は理事会に諮った上で, 教科書会社に提言を行う」ということである. 中学校理科の教科書(1年生理科; 主要5社)のチェックを開始したところ, 結晶の定義(多くの教科書で結晶面に囲まれていると定義されている)や火山灰の構成物に火山ガラスが含まれない等の問題点が既に発見されている. 秋までにまとめてJAMSで報告予定. 教科書会社にも提言を行うほか, 「中学校理科教科書における鉱物科学的記述に関する指針」を出すというアイデアも検討中. 5)その他: 会員による鉱物学の普及活動が拡大傾向にあるので, その把握の必要性も検討中. 青少年のための科学の祭典・大阪大会で普及活動を行う予定.

#### 19. 博物館委員会報告(坂野委員長)

坂野委員長より, 博物館委員会の活動について以下のように報告された.

IMA博物館委員会の状況及び国際会議M&M9の情報を委員内で共有した. M&M9は2021年8月24日~26日にハイブリッド方式での開催に変更となり, そこで行なわれるIMA博物館委員会ビジネスミーティングには委員長がweb会議で参加する予定.

#### 20. その他の報告

(1) 日本学術会議 地球惑星科学委員会地球・惑星圏分科会 学術試料共有小委員会(第25期・第1回)

(西山学術会議連携会員, 宮脇会長)

西山学術会議連携会員より, 1)学術会議のマスタープラン2021に地質学会等と共同提案して採択されている第24期大型

研究「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」については、科博などとの連携をさらに強めて推進する予定であること、2) 学術会議全体を通じた、岩石・鉱物試料・地図資料・水試料・巨大データサイエンス資料等を含めた広範な学術資料の保管・共有を進める体制を作る、「学術資料キュレーションシステムの構築」についても議論が進んでいるとの説明があった。宮協会長から、上記の第24期大型研究については、地質学会からの申し入れがあり、当学会の理事会で承認されて共同提案となった経緯があるとの補足があった。

## (2) 財政、雑誌・編集、事務局体制再建に向けた検討報告（大和田副会長）

大和田副会長より、以下の様な報告がなされた。ここ数年、学会会計収支の赤字(収入900万円、支出1100万円)が続いており、これまで収支改善の努力を続けて来たが大きな節減には繋がらず、このままの推移では2年後に一般会計が赤字となり、現行の事業を続けられない可能性がある。そこで、抜本的な改善策を検討するため、支出額の大きい雑誌・編集と事務局に係る各担当者・関係者に検討をお願いしたところ、次のような提案がまとめられた。1) 雑誌編集・出版では、電子ジャーナル化へ移行すれば大きく改善できること、2) まず現状の事務局支出を大きく節減し、その後事務局業務の外注についても、経費を比較しながら検討すること、3) 今後のスケジュールでは、この理事会でJMPSとGKKの電子ジャーナル化と財政再建に向けた情報や議論の共有を行い、2021年9月広島での総会で電子ジャーナル化(2022年1月からの実施)と業務委託内容の調査開始の承認を得て会員に周知、2021年10月～2022年3月に事務局外部委託に関する調査実施、2022年5月第2回理事会では事務局外部委託調査結果の報告と議論を行い、2022年9月新潟での総会では事務局体制についての決議を目指す、との内容である。また、学会誌の電子ジャーナル化は他の多くの学会でも検討しているので、情報交換や連携を模索してもよいのではとの意見もあった。

## (3) その他：特に無し

## II. 審議事項

### 第1号議案 新入会員承認の件（阿部会員幹事・理事）

阿部会員幹事より、一般会員5名、学生会員1名(記載省略)の入会が紹介され、異議なく入会が承認された。また、2020年5月第2回定例理事会で資格停止となっていた会員1名(記載省略)が会費を全納して復活した事が報告され、承認された。この結果、2021年5月29日現在の会員数総数は826名(内訳一般会員552名、シニア会員168名、学生会員69名、永年会員28名、名誉会員9名)で、2020年8月29日の定例理事会後より18名減少となった。

### 第2号議案 各賞選考委員会報告と審議（宮協会長）

#### (1) 日本鉱物科学会賞選考委員会授賞候補者報告と審議（報告：土屋委員長・理事）

日本鉱物科学会賞選考委員会土屋委員長より、2020年度日本鉱物科学会賞第24回授賞候補者として三河内 岳会員、第25回授賞候補者として辻森 樹会員が報告され、受賞者として異議なく承認された。

#### 2020年度日本鉱物科学会賞第24回授賞者

氏名：三河内 岳 会員（東京大学 総合研究博物館研究部）

業績題目：地球外物質の鉱物学的研究による太陽系における天体進化プロセスの解明

#### 2020年度日本鉱物科学会賞第25回授賞者

氏名：辻森 樹 会員（東北大学 東北アジア研究センター）

業績題目：プレート境界岩総合解析によるオロゲン地質記録と変成プロセスの研究

#### (2) 渡邊萬次郎賞選考委員会受賞候補者報告と審議（報告：黒澤委員長・理事）

渡邊萬次郎賞選考委員会黒澤委員長より、委員会で慎重に審議し選考した結果、2020年度渡邊萬次郎賞受賞第37回授賞候補者として溝田忠人永年会員を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

#### (3) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会授賞論文候補報告と審議（報告：富岡委員長）

日本鉱物科学会論文賞選考委員会富岡委員長より、論文賞規定に沿って、以下の2編を2020年度日本鉱物科学会論文賞受賞論文候補として選考したことが報告された。審議の結果、受賞論文として異議なく承認された。

#### 2020年度日本鉱物科学会第23回論文賞授賞論文

授賞論文: High-temperature Raman spectroscopic study of CO<sub>2</sub>-containing melanophlogite, JMPS, 114, 122–129, 2019.

著者: Masami KANZAKI

[受賞者となる会員著者] 神崎正美会員

#### 2020年度日本鉱物科学会第24回論文賞授賞論文

授賞論文: High resolution X-ray computed tomography and scanning electron microscopy studies of multiphase solid inclusions in

Oman podiform chromitite: implications for post-entrapment modification, JMPS, 115, 247–260, 2020.

著者: Yuan YAO, Eiichi TAKAZAWA, Sayantani CHATTERJEE, Antonin RICHARD, Christophe MORLOT, Laura CRÉON, Salim AL-BUSAIDI, Katsuyoshi MICHIBAYASHI, Oman Drilling Project Science Team  
[受賞者となる会員著者] 高澤米一会員、道林克楨会員

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞授賞候補者報告と審議 (報告: 長瀬委員長代理・河上副委員長・理事)

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会河上委員長代理より、選考委員会で規定に則った審議の結果、2020年度日本鉱物科学会研究奨励賞第29回受賞候補者として田阪美樹会員、第30回受賞候補者として瀧川 晶会員を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

2020年度日本鉱物科学会研究奨励賞第29回授賞者

氏名: 田阪美樹会員 (静岡大学理学部地球科学科)

受賞研究: マントルにおける物質移動メカニズムを解明するための岩石鉱物物理研究

2020年度日本鉱物科学会研究奨励賞第30回授賞者

氏名: 瀧川 晶会員 (東京大学大学院理学系研究科)

受賞研究: 銀河系における物質循環に関する研究

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告: 佐藤委員長代理・黒澤庶務幹事)

応用鉱物科学賞選考委員会佐藤委員長代理・黒澤庶務幹事より、選考委員会での審議の結果、2020年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第13回受賞候補者として田村堅志氏を推薦することが報告された。審議の結果、受賞者として異議なく承認された。

2020年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第13回授賞者

氏名: 田村堅志氏 (国立研究開発法人物質・材料研究機構)

業績題目: 雲母・粘土鉱物を応用したナノコンポジット材料と有害物質吸着剤の開発

(6) 櫻井賞選考委員会受賞候補者報告と審議 (報告: 松原委員長代理・宮協理事)

櫻井賞選考委員会松原委員長代理宮協理事より、選考委員会審議の結果、2020年度櫻井賞は受賞候補者なしとして報告された。

(7) 2019年度JMPS学生論文賞受賞論文候補報告と審議 (報告: 河上選考委員長・理事)

JMPS学生論文賞選考委員会河上委員長より、2020年度JMPS学生論文賞対象論文について委員会で検討した結果、下記の2編を推薦することが報告された。審議の結果、受賞論文として異議なく承認された。

第11回受賞論文: Assimilation and fractional crystallization of Sanukitic high-Mg andesite-derived magmas, Kyushu Island, southwest Japan: An example of the Cretaceous Shaku-dake diorite body. JMPS, 115- 4, 323-347, 2020.

受賞者: Keisuke ESHIMA (江島 圭祐 投稿時: 山口大博1)

第12回受賞論文: Serpentinite enigma of the Rakhabdev lineament in western India: Origin, deformation characterization and tectonic implications. JMPS, 115-2, 216-226, 2020.

受賞者: SARKAR Dyuti Prakash (投稿時: 広島大博3)

第3号議案 2021年度収支予算案の審議 (宮協会長, 説明: 栗林会計幹事・理事)

栗林会計幹事より、2021年度収支予算案が提示され、詳細な説明がなされた。経常収益より経常費用(支出)が約70万円多く、赤字会計となっているが、赤字幅は実施可能な削減策が盛り込まれて例年よりも小さくなっている。また、7月31日決算前の予算であるために未定の部分が多く、更に2021年度内から検討・実施予定の出版・管理費(事務局経費など)関係の節減策が実施されれば、支出削減や刊行費増益のため、収支合計は大幅変更される可能性もある。今回の第2回理事会では、例年通り、現時点での予算案についてご審議・ご承認をいただき、その後7月の決算後に補正予算を立て、第3回定例理事会に提出して最終承認を受ける段取りであることが説明された。審議の後、2021年度収支予算案は異議なく承認された。なお、予算は理事会承認事項であり、総会承認事項ではないが、総会では最終予算案を報告する。

第4号議案 2021年年会の開催について (磯部行事幹事, 井上2019LOC委員長・理事)

磯部行事幹事より、会告・年会HPで2021年年会・総会の日程の概要を次の通り告知した旨、説明があった。続いて井上2021年年会LOC委員長より、以下の年会開催日程案と開催形態・セッション・参加登録費・講演申込み期間が提示され、異議なく承認された。

日程: 2021年9月16日(木)~18日(土)

会場: 広島大学 東広島キャンパス 理学部E棟 〒739-8526 広島県東広島市鏡山1-3-1

形態: 現地とオンラインによるハイブリット形式、オンラインによる口頭発表にも対応。

ポスター発表は原則すべてConfitを利用するオンラインeポスター。  
スペシャルセッション：「火成作用の物質科学」、「岩石—水相互作用」に加え、「東アジアのテクトニクス」及び「プレート  
ト収束域の物質科学」を開催。

一般普及講演：「はやぶさ2」

9月19日(日)13:00～広島大学東広島キャンパス理学部E棟(一般市民に対してはオンライン  
配信)

巡検・見学会等は開催しない

参加登録費 昨年度当初予定と同額

事前料金：一般会員 7,500円 学生会員 3,500円, 非会員(一般)12,000円 非会員(学生)6,000円

当日料金：一般会員 8,500円 学生会員 4,000円, 非会員(一般)13,000円 非会員(学生)6,500円

講演申込み期間：2021年6月23日(火)10:00 ～ 7月14日(水)20:00まで

#### 第5号議案 2022年年会(新潟大学)運営委員名簿提出 (磯部行事幹事・理事)

磯部行事幹事より、新潟大学で開催される2022年年会の現地運営委員会のメンバーについて次のような構成とすることが提示された。委員長 小西博巳、高澤栄一、M. Satish-Kumar、高橋俊郎(以上、新潟大学)、小河原孝彦、宮島宏(以上、フォッサマグナミュージアム)。審議の上、異議なく承認された。

#### 第6号議案 名誉会員推薦,名誉会員推薦諮問,名誉会員推薦委員会設置の審議 (阿部会員幹事・理事)

阿部会員幹事より、数年実施されていなかった名誉会員の推薦を行うため、名誉会員の推薦・推薦諮問をする委員会の設置について提案がなされた。審議の上、異議なく承認された。次回理事会で推薦委員会委員5名を提案し、承認を受けることになった。

#### 第7号議案 研究奨励賞規定の年齢制限の改正 (阿部理事)

阿部理事より、日本鉱物科学会研究奨励賞の受賞対象者に関し、規定の第2条の「37歳以下」という年齢制限に加え、「博士号取得10年以内、ただし、育児や介護、本人の病気等により研究に従事できなかった期間については勘案する。」と改正することが提案された。審議の上、下記の文言とすることで、異議なく承認された。

日本鉱物科学会研究奨励賞規定

(現行) 第2条 本会に日本鉱物科学会研究奨励賞(以下本賞)というを設け、鉱物科学およびその関連分野において顕著な研究業績をあげた当該年度4月1日時点で37歳以下の若手の会員に対し、本賞を贈呈する。

(改正) 第2条 本会に日本鉱物科学会研究奨励賞(以下本賞)というを設け、鉱物科学およびその関連分野において顕著な研究業績をあげた当該年度4月1日時点で37歳以下あるいは博士号取得10年以内(ただし、育児や介護、本人の病気等により研究に従事できなかった期間については勘案する)の会員に対し、本賞を贈呈する。

#### 第8号議案 研究発表優秀賞受賞者の支援金申請期間延長 (黒澤理事)

黒澤理事より、コロナ禍の影響で海外の学会等への成果発表参加や海外での調査・研究ができない状況にあるので、海外渡航支援金を受ける期間を、受賞1年以内との規定から「原則として受賞1年以内とし、事情によっては選考委員会に申し出ることによって延長できる」と改正することが提案された。審議の上、下記の文言とすることで、異議なく承認された。

E. 研究発表優秀賞の選考ならびに海外渡航支援制度に関するガイドライン

(海外渡航支援制度の内容)

(現行) 7. 海外渡航支援を受ける期間は、受賞から1年以内とする。

(改正) 7. 海外渡航支援を受ける期間は、受賞から原則として1年以内とする。

#### 第9号議案 研究発表優秀賞選考委員会交代委員の審議 (黒澤理事, 説明: 吉村委員長)

研究発表優秀賞選考委員会の吉村委員長より、交代予定の委員補充に関する説明があり、以下の1期目委員の新任について提案がなされた。審議の上、異議なく承認された。

1期目委員: 吉田健太(副委員長), 杉浦悠紀, 湯口貴史, 糺谷 浩, 星出隆志, 川本竜彦(理事)\*

2期目委員: 吉村俊平(委員長), 篠崎彩子, 富岡尚敬, 中村 佳博

(2期目委員任期: 2021年9月18日まで; \*川本委員は1年任期で交代予定)

#### 第10号議案 第25期地球惑星科学分野大型研究計画への賛同・共同提案 (宮脇会長)

宮脇会長より、現在採択されている第24期大型研究「地球惑星研究資料のアーカイブ化とキュレーションシステムの構築」に継続し、第25期地球惑星科学分野大型研究計画についても、同様な計画を日本地質学会が中心となって取りまとめ

て提案する予定であるとの説明があった。また、前回同様、地質学会会長から当会宛に、連名で共同提案者となって欲しい旨の依頼が届いているので、当学会も賛同して共同提案者として次期計画を提出したいとの提案がなされた。審議の上、異議なく承認された。

#### 第11号議案 財政、雑誌・編集、事務局体制再建に向けた検討方針（大和田副会長）

大和田副会長より、今回報告事項でも説明したように、学会の会計収支を抜本的に改善するため、雑誌の電子ジャーナル化・業務見直しおよび事務局体制の改革案を理事会で議論するため、各担当者を中心に提案をまとめている旨の説明があり、今後も担当者を中心とした集まりで案をまとめる方向で検討したいとの提案があった。また、この改善・改革案については、広島大での年会の総会で、何らかの報告ができるスピード感で進めたいとの補足があった。審議の後、異議なく承認された。

#### 第12号議案 JMPS誌・GKK誌の電子ジャーナル化の検討

（大和田副会長、吉朝英文誌編集幹事・理事、高澤和文誌編集幹事代理）

大和田副会長より、学会の会計収支を改善する抜本的な対応が必要であり、中でも刊行費を大きく節減する手段として雑誌の電子ジャーナル化が有力との説明がなされた。

続いて、吉朝英文誌編集幹事より、電子ジャーナル化した場合に有利な点と冊子体の有効性の両面が説明され、基本は電子ジャーナルとしても、冊子体を必要とされる方のためにオンデマンド印刷等の対応を検討中との説明があった。編集業務についても、現在、事務員の個人的努力に負っている部分をどうカバーすべきか検討中とのことであった。最近、携帯型電子媒体で論文を読む人が増えているので、段組でない単純な体裁の方が読みやすく、それが編集業務削減に繋がるのであれば検討しても良いのではとの意見があった。高澤和文誌編集幹事代理からは、電子ジャーナル化に付随した経費削減案や投稿数増加への対応策も検討していること、JMPSとGKKの統合については今後も検討を続けること、さらに、JMPSとGKKの電子ジャーナル化によって節約できる費用(冊子体印刷とカラー化代金・送料、別刷送付費用)と電子ジャーナル化で減収となる費用(個人会員・図書館・書店での冊子体購入費、カラー化代金、別刷代金等)との比較から、電子ジャーナルに移行した方が数十万円の節約につながるとの説明がなされた。GKKの場合、電子ジャーナル化しても独立採算できるわけではないとの補足もなされたが、学会からの多少の補助で運営できるのであれば、学会サービスの一環としては良いのではとの意見があった。また、冊子体を必要とする方へのオンデマンド印刷等も学会サービスとして検討してはとの意見があった。以上の審議の後、JMPSとGKKについては電子ジャーナル化の方向で計画を進めることが、異議なく承認された。

#### 第13号議案 第3回定例理事会、総会開催日の件（黒澤庶務幹事・理事）

黒澤庶務幹事より、第3回定例理事会を監査と定時総会開催日の都合上、2021年8月28(土)に開催したいとの提案があり、異議なく承認された。なお、監査は同日午前中実施予定、2020年度定時総会は9月17日開催予定である。

その他

特になし

【10】閉会 以上の議事を終え、12時48分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

令和3年(2021年)6月11日

会 長 宮脇 律郎 印

副会長 大和田 正明 印

監 事 小暮 敏博 印  
(配布時押印省略)